

要 旨

本研究は、自己の進路を主体的に考える生徒を育成するために、学級活動におけるキャリア教育の視点を踏まえた進路指導の在り方を探ったものである。まず、キャリア教育の視点である基礎的・汎用的能力の4つの能力の位置付けを検討し、それを基に題材の指導計画を作成した。学級活動における話し合い活動において、将来直面するであろう様々な課題を取り上げ、基礎的・汎用的能力を育む授業を実践したことで、将来、様々な生き方や進路の選択可能性があることを理解しようとする意識を高めることができた。

〈キーワード〉 ①基礎的・汎用的能力の4つの能力 ②課題対応能力 ③題材の指導計画

1 研究の目標

自己の進路を主体的に考える生徒を育成するために、学級活動において、キャリア教育の視点を踏まえた進路指導の在り方を探る。

2 目標設定の趣旨

学習指導要領解説総則編「進路指導の充実」の項では、中学校段階の生徒は、自己の生き方についての関心が高まる時期にあるとし、「自分自身を見つめ、自分と社会とのかかわりを考え、将来、様々な生き方や進路の選択可能性があることを理解するとともに、自らの意思と責任で自己の生き方、進路を選択することができるような適切な指導・援助を行う必要がある」¹⁾と示されている。そして、中学校における進路指導について、「進路指導が生徒の生き方の指導であることを踏まえ、生徒の意欲や努力を重視することが重要である」²⁾とし、キャリア教育の一貫として重要な役割を果たすものであることや学ぶ意義の実感につながることを踏まえて行われることが大切であると述べられている。進路指導を行うに当たっては、「特別活動の学級活動を中核としつつ、総合的な学習の時間や学校行事の勤労生産・奉仕的行事における職場体験活動など進路にかかわる啓発的な体験活動及び個別指導としての進路相談を通じて、生徒の入学時から各学年にわたり、学校の教育活動全体を通じ、系統的、発展的に行っていく」³⁾ことが求められている。

平成23年1月中央教育審議会答申における「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」では、目標とする進路が達成できない場合などが多々あるにもかかわらず、経済・社会・雇用の仕組みについての知識や様々な状況に対処する方法を十分に身に付けていない若者が多いと指摘されており、社会の現実を視野に収めた積極的なキャリア教育の必要性に言及している。そして、これまでのキャリア教育の現状を踏まえ、キャリア教育の視点として「基礎的・汎用的能力（包括的な能力概念）」が提示された。この「基礎的・汎用的能力」は、4つの能力（「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」）で構成され、相互に関連・依存した関係にある。各学校がそれぞれの課題を踏まえて、具体的に4つの能力を育成する場を設定し、工夫された教育を通じて達成されることが望ましいとされる。

しかしながら、平成25年3月に国立教育政策研究所から発行された「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」における生徒調査では、自分の将来の生き方や進路について考えるため、どのようなことを指導して欲しかったかという問いに対して、「自分の個性や適性を考える学習」の割合が39.3%と最も高く、次いで「就職後の離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの

対応」が 32.1%という結果であった。さらに、学校調査の「キャリア教育に関する学習の機会や内容等の実施状況」の項目において、「就職後の離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応に関する学習を実施していない」と回答した割合が 8 割を超えていた。このことは、進路指導の実践における課題の一つを示すものであり、キャリア教育の視点を踏まえた授業実践の開発が必要であると考えられる。

そこで本研究では、研究テーマ、研究課題を受け、生徒が将来直面するであろう様々な課題について話し合い活動を行い、他者と意見を交わす中で、基礎的・汎用的能力を育む進路指導の在り方を探ることとする。そしてこのことが、将来、様々な生き方や進路の選択可能性があることを理解する生徒の育成につながると考え、本目標を設定した。

3 研究の仮説

学級活動における話し合い活動において、将来直面するであろう様々な課題を取り上げ、基礎的・汎用的能力を育む授業を実践していけば、将来、様々な生き方や進路の選択可能性があることを理解する生徒の育成につながるであろう。

4 研究方法

- (1) キャリア教育の視点を踏まえた進路指導に関する理論研究
- (2) 仮説を検証するための授業実践及び考察
- (3) 生徒を対象とした進路に関するアンケートとワークシートの分析及び考察

5 研究内容

- (1) キャリア教育の視点である基礎的・汎用的能力の 4 つの能力の位置付けを検討する。
- (2) 所属校の 1 年生において「なぜわたしたちは学ぶのだろう」の題材(5 時間の指導計画)で、検証授業を行い、学級活動における進路指導の在り方について検討する。
- (3) 所属校の 1 年生の対象クラスに実施した基礎的・汎用的能力の状況をみるアンケートの集計結果と授業後のワークシートの記述における分析及び考察を行う。

6 研究の実際

- (1) 文献等による理論研究

ア 進路指導とキャリア教育との関係

学習指導要領解説総則編「進路指導の充実」の項で述べられている「生き方の指導」について、「中学校キャリア教育の手引き」には、本来の進路指導は、卒業時の進路をどう選択するかを含めて、更にどういう人間になり、どう生きていくことが望ましいのかといった長期的展望に立って指導・援助するという意味をもつ教育活動だと整理されている。一方キャリア教育は、就学前段階から初等中等教育・高等教育を貫き、また学校から社会への移行に困難を抱える若者を支援する様々な機関においても実践されるものであり、自らの力で生き方を選択していくことができるために必要な能力や態度を育てることを目指すものだと示された。これらのことを踏まえ、進路指導とキャリア教育との関係が図 1 のように示されており、進路指導がキャリア教育の

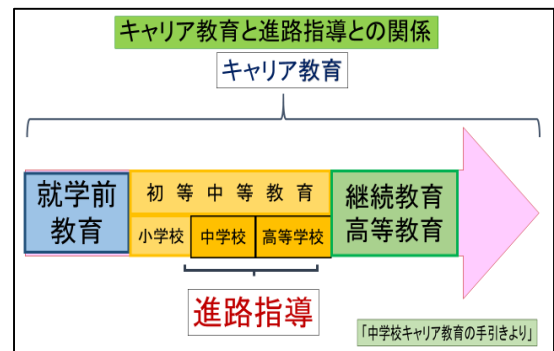


図 1 進路指導とキャリア教育との関係

一環として行われる必要があると考える。しかし、キャリア教育自体があまりに大きな概念であることから、進路指導をキャリア教育の視点で実践するに当たって具体的なイメージをもちづらい現状であるといっても過言ではない。そこで、平成23年1月中央教育審議会答申において示された、キャリア教育の視点である基礎的・汎用的能力について整理することとする。

イ キャリア教育の視点－基礎的・汎用的能力の4つの能力と具体的な要素－

キャリア教育の視点として示された基礎的・汎用的能力は、「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」の4つの能力によって構成される。さらに、4つの能力は、包括的な能力概念で、それぞれが独立したものではなく相互に関連・依存した関係にあるとされ、各学校において、実態と課題を踏まえて4つの能力の具体的な要素を設定し、工夫された教育を通じて育成されることが望ましいと示された。「中学校キャリア教育の手引き」を基に、それぞれの具体的な要素例について整理したものが表1である。

表1 基礎的・汎用的能力の4つの能力と具体的な要素例

基礎的・汎用的能力	具体的な要素例
人間関係形成・社会形成能力	他者の個性を理解する力、コミュニケーション・スキル、チームワーク等
自己理解・自己管理能力	自己の役割の理解、忍耐力、前向きに考える力等
課題対応能力	本質の理解、課題発見、計画立案、評価・改善、実行力等
キャリアプランニング能力	学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択等

一方、平成25年の「キャリア教育・進路指導に関する総合実態調査第一次報告書」に、学校調査における基礎的・汎用的能力の指導状況が示された。これによると、第1学年での「課題対応能力」と「キャリアプランニング能力」の育成に関する授業・指導だけが8割を超えていない状況で、それ以外の内容については、どの学年も8割を超える割合で指導されていた。その反面、「教師の指導と生徒のキャリア発達との差異について」において、学級担任調査と生徒調査を比較したものが示されており、学級担任が生徒のキャリア発達には重要だと考え、それぞれの具体的な要素に関して指導していることが、必ずしも生徒のキャリア発達に結び付いていないことが明らかになった。このことから、教師のみが、基礎的・汎用的能力の4つの能力を理解し、題材を指導するのではなく、生徒自身に対してもその意図を明確に示し、学習活動を行わせていく必要があると考えた。

ウ 本研究の進路指導における基礎的・汎用的能力の位置付け

これまでの理論研究を基に、本研究では、進路指導における基礎的・汎用的能力の位置付けを検討する必要があると考えた。そこで、基礎的・汎用的能力の4つの能力の関係性を考えることとする。「中学校のキャリア教育の手引き」では、「自己理解・自己管理能力」がキャリア形成や人間関係形成における基盤となり、特に「自己理解能力」は、多様なキャリアを形成する過程で、生涯にわたって常に深めていく必要があるものと示されている。また、「人間関係形成・社会形成能力」に関しては、人や社会との関わりによって、自分にとって必要な知識や技能等に気付かされるものであるとし、「課題対応能力」が、自らが行うべきことを意欲的に取り組むために必要な能力であると示されている。

これらの関係性を踏まえ、キャリアを形成していくに当たって、「自己理解・自己管理能力」を柱とし、その土台として「人間関係形成・社会形成能力」を据えた。また、人や社会との関わりの中で、自己の役割を自覚することが、「キャリアプランニング能力」の育成につながると考えた。そこで、課題を発見・分析し、処理する「課題対応能力」が、「自己理解・自己管理能力」と影響し合う中で将来に対する切実感が増し、「キャリアプランニング能力」の育成が促されるものと考えた。本研究では4つの能力の育成が循環されるものと捉え、図2のように位置付けた。

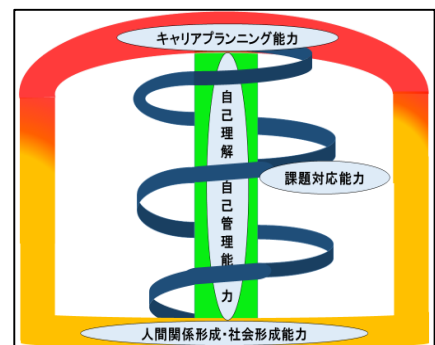


図2 本研究の進路指導における基礎的・汎用的能力の位置付け

エ 学級活動における進路指導の位置付けを踏まえた基礎的・汎用的能力の各要素

学習指導要領解説特別活動編学級活動(3)「学業と進路」の項目において、「生徒が、将来直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくためには、生徒一人一人が、学ぶこと、働くこと、そして生きることについて自己の問題として真剣に受け止め、それぞれの深い結び付きを理解していくことが必要である」⁴⁾と示されている。また、(2)「適応と成長及び健康安全」の項目においては、生徒が、子どもから大人への過渡期である発達課題を踏まえた、人間としての成長につながる活動の大切さに触れている。その具体例として、「自分が不安に感じること、悩みとその解決方法、身近な人の青年時代などの題材を設定し、生徒が自由に話し合ったり、先輩や身近な大人にインタビューして発表したり話し合ったりするなど様々な方法が考えられる」⁵⁾を示している。

このことから、本研究では、将来直面するであろう様々な課題や他者の生き方を題材とし、生徒が互いの考えを伝え合う話し合い活動の場を設定することが必要であると考えた。具体的には、直面した困難の本質への理解を促したり、自分の考えを自覚させたりすることをねらいとし、話し合い活動を踏まえた進路指導の在り方を探ることとした。これらを総括し、前出の図2を受け、基礎的・汎用的能力の必要な各要素を検討した(図3)。これに基づいて、題材を構成し、学習活動の場における手立ての検討を行った。

(2) 検証授業の実際

ア 生徒の実態

本研究においては、これまでの理論研究を踏まえ、第1学年の1学級を対象に検証授業を行うこととした。本学級の生徒の実態を把握するための参考資料として、「中学校キャリア教育の手引き」に示されている「キャリア教育アンケートの一例」を用いて、事前アンケートを実施した。このアンケートは、基礎的・汎用的能力の4つの能力が視点となった全12項目で構成されている(表2)。このアンケートの選択肢を数値化して集計を行った結果、全体的に、どの能力も平均が8.1(12点満点)を超えたが、その中で一番平均が低かった能力は、「自己理解・自己管理能力」の項目であった。さらに、「学ぶ意義を考えたり、学校で学んでいることと将来とのつながりを考えたりしているか」では、「あまりしていない、ほとんどしていない」と答えた生徒が40%(13人)であった。このことから、肯定的な自己理解を深めていくことを柱とし、将来を見通した学びの意義を理解したり、自らが行うべきことに意欲的に取り組んだりする力を育成する必要があると考えた。

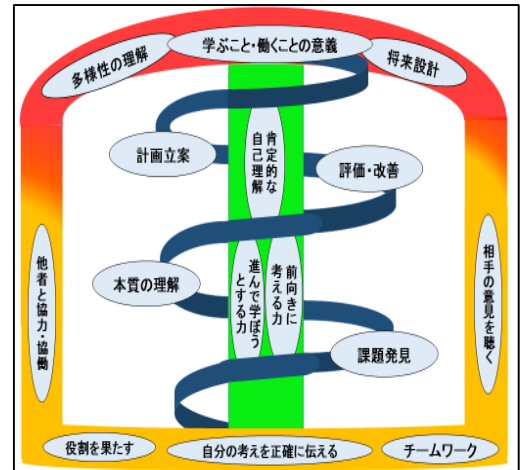


図3 本研究における基礎的・汎用的能力の各要素

表2 キャリア教育アンケートの一例
(「中学校キャリア教育の手引き」より)

観点	アンケート項目	選択肢
人間関係形成・社会形成能力	①友だちや家の人の意見を聞くとき、その人の考えや気持ちを受け止めようとしていますか。	4 3 2 1
	②相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしていますか。	4 3 2 1
	③自分から役割や仕事を見つけたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしていますか。	4 3 2 1
自己理解・自己管理能力	④自分の興味や関心、長所や短所について、把握しようとしていますか。	4 3 2 1
	⑤気持ちが沈んでいる時や、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組もうとしていますか。	4 3 2 1
	⑥不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか。	4 3 2 1
課題対応能力	⑦分からないことやもっと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を収集したり、だれかに質問をしたりしていますか。	4 3 2 1
	⑧何か問題が起きた時、次に同じような問題が起らないようにするために、何をすればよいか考えられていますか。	4 3 2 1
	⑨何かをする時、見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしていますか。	4 3 2 1
キャリアプランニング能力	⑩学ぶことや働くことの意味について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。	4 3 2 1
	⑪自分の将来について具体的な目標をたて、その実現のための方法について考えられていますか。	4 3 2 1
	⑫自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしていますか。	4 3 2 1

4:いつもしている 3:時々している
2:あまりしていない 1:ほとんどしていない

イ 題材の概要と指導計画

特別活動の学級活動「(3)学業と進路」の「ア 学ぶことと働くことの意義の理解」,「オ 主体的な進路の選択と将来設計」を受けて,「課題対応能力」を軸に題材の指導計画を考案することとした。「課題対応能力」の「本質の理解」や「課題発見」等の要素を軸とし,実在する人物が直面した困難について対処するための最善策を,話し合い活動を通して考えさせることとした。題材で取り扱う実在する人物については,直面した困難を,模索しながら乗り越えて生きている人物を選択した。第1時,第2時,第4時で,題材の人物が直面した困難について,話し合い活動を通して考えさせた。題材の人物の生き方を踏まえ,第3時,第5時においては,生徒自身の将来や生き方と向き合わせるために,中学校卒業後の具体的な進路選択について考えさせるようにした。そして,生徒自身に自分に置き換えて考えさせるために,題材で取り扱う人物と同様な人生上の諸リスクを想定したワークシートの進路力マップ(以下進路力マップ,114頁,図6で示す)を作成した。また,ワークシートを作成する際は,具体的な実践を取りまとめた仙崎(2001)の著書「中学生の進路力を育てる総合的な生き方の学習プラン」を参考にした。さらに,生徒の実態を把握し,次の題材へつなげるために,第3時の後に個別指導としての進路相談を設定した。以上のことを踏まえ,本研究では図4のように題材の指導計画を構成した。

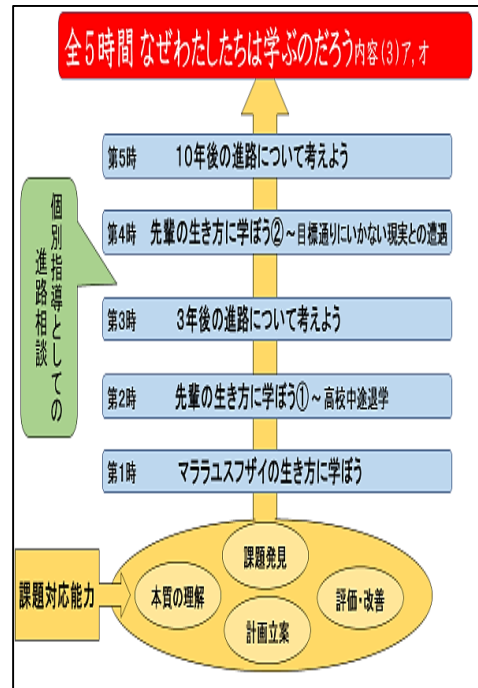


図4 題材の指導計画

ウ 題材における具体的な手立て

生徒に,多様な生き方があることを気付かせたり,自分の将来について具体的に考えさせたりすることを指導の軸とした。さらに,将来起こり得る人生上の諸リスクに対する他者の生き方を知ることを通して,人生上の諸リスクへの対処方法を含め,今の自分に必要なことなどを考えさせることができると考えた。これらを踏まえ,具体的な手立てを次の3つとした。

- ① 直面した困難を模索しながら乗り越えて生きる実在する人物にインタビューを行う。その内容を,「出会い」「困難との遭遇」「人生の選択」の3つの視点によるスライドを作成し,図5のような学習の流れで授業を展開する。
- ② 話し合い活動の場面では,自分の考えを記入した付箋を用いて,その班の最善策を考えさせる。
- ③ 生徒に基礎的・汎用的能力を意識させるために,4つの能力の視点で進路力マップを作成する。

(3) 授業実践の概要

5時間の題材の指導計画の中で,実在する人物の直面した困難を題材とした第2時,第4時の授業の概要とワークシートを具体的に示すこととする。

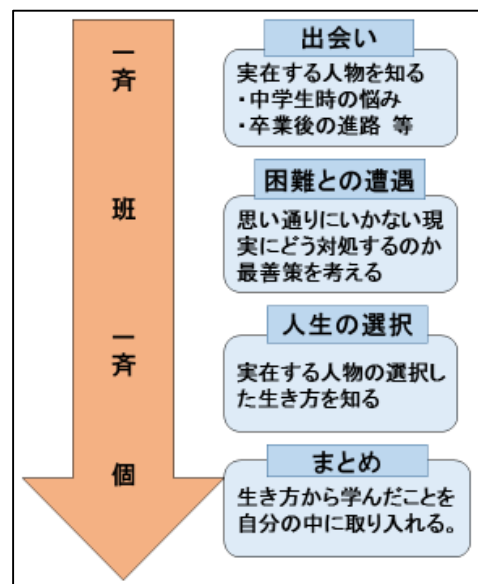





図5 題材における学習活動の流れ

ア 授業の概要(第2時)

学年・教科等・題材名	第1学年 学級活動 「先輩の生き方に学ぼう①」	
将来起こり得る人生上の諸リスク	高校中途退学	
指導のねらい	実在する人物が、苦悩の末に高校中途退学を選択し、日々模索しながら目標を見いだしていく生き方を知ることで、高校中途退学の現実とその背景に気づき、今の自分に必要なことや卒業後の進路について考えようとする意識を高める。	
学習の流れ(分)	主な学習活動	☆キャリア教育の視点 ○指導上の留意点
開始(7分)	・高校中途退学の現実を知る。	○平成23年3月、内閣府より出された「若者の意識に関する調査～高等学校中途退学者の意識に対する調査～」を示す。
展開(33分)	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドショー(前半)を通して、実在する人物の中学校時代のことや高校選択時の思いを知る。 ・課題に対する最善策を班で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高校中途退学を選択し、自分らしい道を模索する中で、目標を見いだすことができた人物にインタビューしたものをスライドで示す。 ☆課題対応能力(本質の理解) ☆人間関係形成・社会形成能力
課題	<p>あなたは高1の冬、担任の先生から次のように告げられました。 「これ以上欠席が増えると、2年生に進級することが難しい」 このような状況において、あなたはどのように対処しますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班の最善策を発表し合い、共有する。 	
<p>保健室でもよいので、学校に行き、周りに積極的に話し掛け、楽しめることを探します。</p>		<p>学校が苦手でも楽しいことが1つはあるはずです。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドショー(後半)を通して、実在する人物が選択した生き方を知る。 	<p><生徒の反応> たくさん悩んで、大きな決断をしたんだなあ。 本質の理解</p>
まとめ(10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・生き方から学んだことをワークシートに記入する。 ・進路力マップに記入する 	<ul style="list-style-type: none"> ☆自己理解・自己管理能力 ☆キャリアプランニング能力
生徒の感想例		進路力マップに見られた本題材の影響
<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さん(実在する人物)のように高校を辞めたくはありません。高校に入って「辞めたい」と思っても、高校を辞めずに頑張りたいです。 ・自分に合った高校についてしっかり考えようと思った。 		<p>もしも、第1希望に不合格になったら・・・ いつでも立ち止まっている訳にはいかないのだから、第2希望、又はそれ以外の学校で頑張る。新しい可能性を手にいれたと思って楽しんで通う。</p>

イ 授業の概要(第4時)

学年・教科等・題材名		第1学年 学級活動 「先輩の生き方に学ぼう②」
将来起こり得る人生上の諸リスク		目標としてきた職業に就くことができない現実との遭遇
指導のねらい		実在する人物が、目標としてきた職業に就くことの難しさを突き付けられたが、自分に合った職業を模索して、将来を再設計していく生き方を知ることで、職業選択に対する意識を高める。
学習の流れ (分)	主な学習活動	☆キャリア教育の視点 ○指導上の留意点
開始 (7分)	<ul style="list-style-type: none"> ・職業選択の際に基準となる価値を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基準となる価値(経済, 安定, 社会奉仕, 創造, 個性, 人間関係, 協働, 環境, 時間, 変化)を示した一覧表を配布する。
展開 (33分)	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドショー(前半)を通して、実在する人物の中学校時代のことやずっと目標としてきた夢について知る。 ・課題に対する最善策を班で話し合う。 <div data-bbox="159 936 1002 1167" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>課題</p> <p>今の自分では、思いどおりの仕事に就くことが難しい現実を突き付けられました。あなたは上に示した価値の中から、どれを手放し、将来をどのように再設計しますか。</p> </div> <div data-bbox="159 1211 890 1473" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>「個性」は手放せないよ。だって仕事を長く続けるために必要!</p>  </div> <div data-bbox="893 1211 1452 1346" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>店を建てる夢はいったんあきらめて、コツコツお金を貯めればいい。「経済」を手放そうよ!</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○目標にしていた職業に就けなかったが、自分らしい道を模索する中で、将来を再設計した人物にインタビューしたものをスライドで示す。 ☆課題対応能力(課題発見) ☆人間関係形成・社会形成能力
	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の最善策を発表し合い、共有する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドショー(後半)を通して、実在する人物が選択した生き方を知る。 	<div data-bbox="1029 1489 1452 1646" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>← <生徒の反応>挫折を味わっても、自分次第で様々な生き方があるんだなあ。 課題発見</p> </div>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・生き方から学んだことをワークシートに記入する。 ・進路力マップに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆自己理解・自己管理能力 ☆キャリアプランニング能力
生徒の感想例		進路力マップに見られた本題材の影響
<ul style="list-style-type: none"> ・僕が一番大切だと思っていた「個性」と「創造」を〇〇さん(実在する人物)が手放したことに驚きました。 ・あきらめなければ、様々な道が見付かることに気付きました。 		 <p>もし、自分の希望する仕事につくことへのむずかしさを感じたら?</p> <p>その仕事をやめて自分にあった仕事を探す またその仕事に近づくことかできたら、頑張 って就職できるよにする</p>

ウ 進路力マップ

図6に示した進路力マップは、中学校在学中から就職を経た人生の大まかな流れを図示したものであり、全時間を通して取り扱うものである。記入欄の枠線を基礎的・汎用的能力の4つの能力の視点で区別し、記入しやすくなるように作成した。この進路力マップの一番の特徴は、理想の人生設計を描かせるだけにとどまらず、「課題対応能力」の視点として、思いどおりにいかない状況を設定し、どのように対処するのかを考えさせ、記入させることにある。また、「人間関係形成・社会形成能力」の育成の視点から、第5時の話し合い活動で互いの進路力マップを見せ合う場を設定する。互いの考え方の違いや共通点などの気付きを付箋に記入させ、マップ上の「A」の箇所に貼らせる活動を行った。

このように、進路力マップを作成したり、互いに見せ合ったりすることにおいて、特に、「自己理解能力」を育成することをねらいとした。

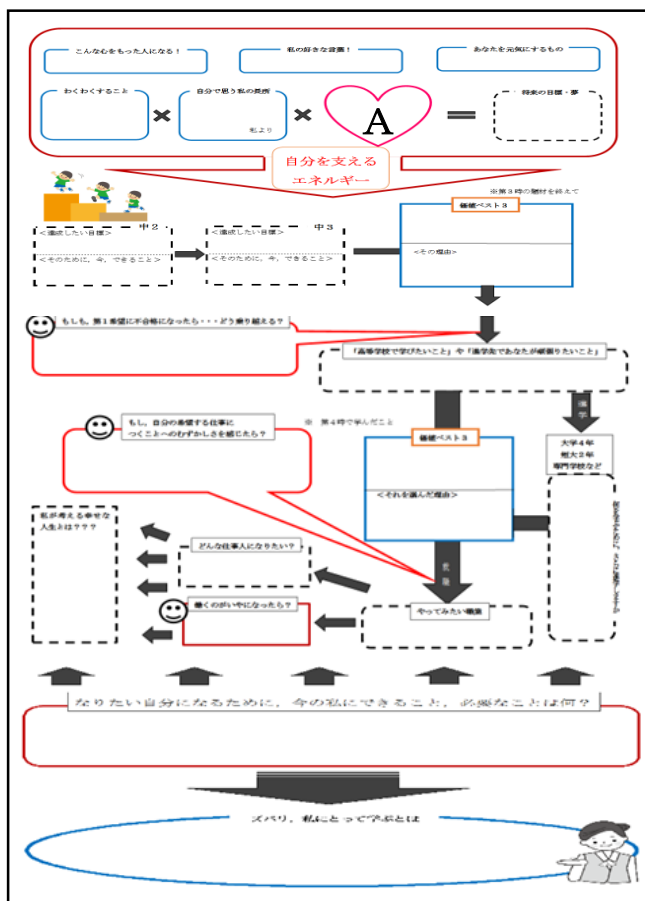


図6 4つの能力の視点に基づいて作成した進路力マップ

(4) 検証の視点

ア 【検証の視点Ⅰ】 様々な生き方や進路の選択可能性について考えることができているか。

直面した困難に対して、実際に対処した生き方を示すことを通して、次の2点のいずれかに関する記述が見られたかどうかについて検証を行う。

- ・ 様々な考え方や生き方があることへの気付きについての記述
- ・ 直面した困難の本質を理解しようとしている考えについての記述

イ 【検証の視点Ⅱ】 自分に置き換えた生き方について考えることができているか。

題材で取り扱った人物の直面した困難に対処する方法や手立ての最善策を、話し合い活動において考えさせることを通して、次の2点のいずれかに関する記述が見られたかどうかについて検証を行う。

- ・ 直面した困難の対処法を、自分に置き換えて考えている記述
- ・ 今、努力すべき自分の課題についての記述

(5) 検証授業の考察

対象学級中学1年生30名(欠席者を除く)のキャリア教育アンケート(110頁,表2)の結果を基に、基礎的・汎用的能力の総合点とキャリアプランニング能力の結果をクロスさせ、進路に対する意識の高い層からA群(1~14), B群(15~24), C群(25~30)と分類した(図7)。この分類を踏まえて、考察を行うこととする。

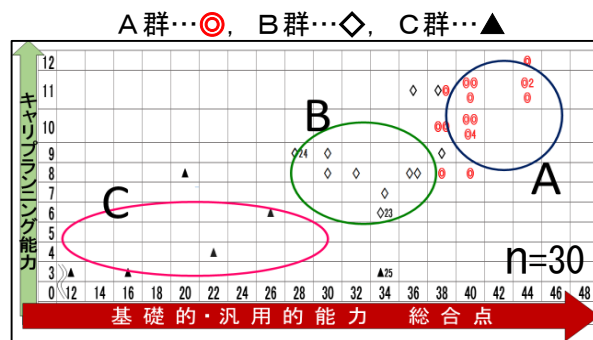


図7 進路に対する意識に基づく学級の分類

ア 【検証の視点Ⅰ】について(様々な生き方や進路の選択可能性)

資料1は、第2時の人物の生き方から何を学んだかの問いに対する記述である。資料1にある生徒A-4は、「高校中途退学」という人生の選択の背景には苦渋の判断があったことに気付くことができ、「進学先を選ぶ際には、自分に適しているか慎重に考える必要がある」と記述していた。また、生徒B-24は、題材の人物の気持ちに共感しつつ、人にはそれぞれの生き方があると述べ、自分に適した道を模索していきたいという意思を示した。

資料2は、第4時の人物の生き方から学んだことについての記述の一部である。生徒B-23の記述のように、B、C群の生徒に、挫折することに対する不安の軽減が見られる記述が多く見られた。また、生徒A-2は、題材の人物の選択した生き方と自分の考えとの相違に驚きを感じていた。このように、生き方が1つでないことに気付いた記述がA群に多く見られた。以上のことから、どの群においても、直面した困難に対して、模索しながら対処する生き方について考えることを通して、様々な生き方や進路の選択可能性について考えることができたのではないかといえる。

イ 【検証の視点Ⅱ】について(自分に置き換えた生き方)

資料3のC-25は、「大切な価値は何か」という問いに対して、班で考えた最善策とは違った考えを記述した。このことは、周りの考えに理解は示しつつ、話し合い活動を通して、自分の揺るがなかった考えを自覚したものと考えられる。

また、「第4時の人物の生き方を知り、あなたはこれからどんな力を伸ばしていきたいと考えたか」の問いに対して、B、C群に属していた生徒の多くに、「挫折しても、あきらめないで自分に合った道を探し続ける力」、「考え方を変えてみる力」などの記述が多く見られた。そして、進路に対する意識の高い層に分類されていたA-4は、話し合い活動の場面でも、より具体的な事例を挙げて、自分の意見を伝えており、第4時後のワークシートでは、題材の人物の生き方から具体的な課題を見いだす記述が見られた(資料4)。これは、話し合い活動を通して、題材の人物が直面した困難について考えたことで、様々な考えや周りとの違いによる葛藤を経て、自分の目指したい将来について具体的に考えようとする意識が高まったのではないかと考える。

ウ 全体の変容における考察

基礎的・汎用的能力の4つの能力ごとの伸びを考察すると、授業の回が増すごとにどの能力においても伸びが見られ、相互に関連・依存した関係であることが実証された(図8)。中でも一番の伸びが見られたのは、「人間関係形成・社会形成能力」であった。検証授業後に話し合い活動に対する感想を記述させたところ、題材で取り扱った人物の直面した困難について班で最善策を話し合う中で、様々な

生徒	第2時の人物の生き方から学んだこと
A-4	私は、「中途退学」と聞くと、高校を甘く考えていた。3年通えなかった弱い人だと思っていました。ですが、今日のOOさんの話で、中退するのは、すごく大きな勇気と決断が必要なんだと思いました。
B-24	もししたら僕も、OOさんのように、中途退学したい、いやだと思えることがあると思います。だけど、中途退学しても人それぞれには、夢があると思うので、自分には自分に合った方法で切り拓いていきたいと思いました。

資料1 第2時における記述

生徒	第4時の人物の生き方から学んだこと
B-23	自分の夢が叶わなくてあきらめたりすることがあっても、自分の大切な価値がすべて生かされる仕事をさがせばいいのかなと思った。
A-2	(僕が一番大切にしていた「個性」を創造を手放すというにおどろきました。そして新しい生き方を考え直して、一番いい生き方を探し当てるとい生き方を学びました。

資料2 第4時における記述

生徒	第4時「あなたにとって大切な価値は何ですか」
C-25	私が手放せないものは「安定」。リストラがなく、自分の好きなことが安心してずっとできるように。

資料3 第4時における記述

生徒	第4時「あなたはこれからどんな力を伸ばしていきたいか」
A-4	未来のことを具体的に考える力を伸ばしていきたい。OOさん(第4時)にもし、未来を具体的に考える力があれば「店を建てる」という漠然なものじゃなく、「店を建てたいからどうする」という部分を考えることが早くできていたからです。

資料4 第4時における記述

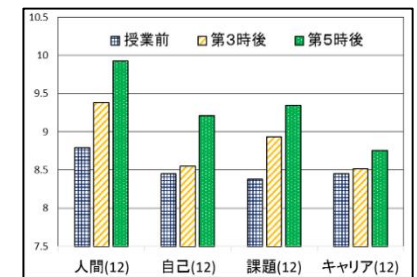


図8 4つの能力における変容

意見があることに気付いたとする感想が多く見られた。また、5時間の題材を振り返らせたワークシートに、「自分に適した高校について考えるようになった」、「様々な経験をした人達の話聞いて、自分は今何をしようすればいいのかを感じた」などと、将来を見通して自分自身について考えようとする記述が見られた。検証授業前後(10月、1月に実施)を比較したグラフ(図9)においても、学級全体の傾向として、基礎的・汎用的能力の伸びが見られ、特にC群の生徒における顕著な伸びが見られた。

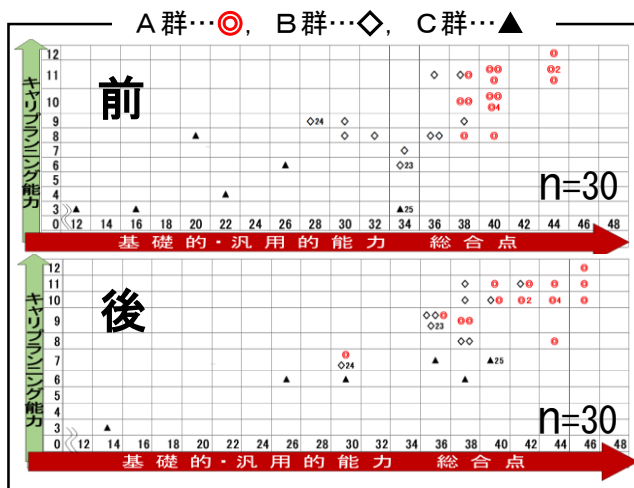


図9 授業前後における進路に対する意識の変容

これらの結果から、「課題対応能力」を軸とした題材の指導計画を作成し、計画的に実践したことで、将来に対して具体的に考えようとする生徒の意識が向上したのではないかと考える。

7 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

進路指導における基礎的・汎用的能力の4つの能力を位置付け、「課題対応能力」を軸とした題材を作成したことで、キャリア教育の視点を踏まえた進路指導を、具体的な題材として示すことができた。生徒においては、以下の2点に示す具体的な姿が見られた。

- ・ 様々な生き方や進路の選択可能性があることに気付くことができた。
- ・ 将来を見通して、今の自分の課題について考えることができた。

(2) 今後の課題

中学校第1学年を対象に「課題対応能力」を軸として題材の指導計画を作成した。今後は、この題材を踏まえ、第2、第3学年でどのように系統的な進路指導を行っていくのか検討をする必要があると考える。

《引用文献》

- 1) 2) 3) 文部科学省 『学習指導要領解説 総則編』 平成20年3月 ぎょうせい p.59
 4) 5) 文部科学省 『学習指導要領 特別活動編』 平成20年3月 ぎょうせい p.39, p.32

《参考文献》

- ・ 文部科学省 『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』 平成23年1月
- ・ 国立教育政策研究所 『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査 第一次報告書』 平成25年3月
- ・ 文部科学省 『中学校キャリア教育の手引き』 平成23年5月 教育出版
- ・ 国立教育政策研究所 『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(中学校特別活動)』 平成23年11月
- ・ 内閣府 『若者の意識に対する調査(高校中途退学者の意識に関する調査)』 平成23年3月
- ・ 仙崎 武監修 『中学生の進路力を育てる総合的な生き方の学習プラン』 2001年3月 実業之日本社